

だんぷさん
断夫山古墳 (本発掘調査B)

所在地 名古屋市旗屋二丁目
(北緯35度07分52秒 東経136度54分14秒)

調査理由 史跡 断夫山古墳調査事業

調査期間 令和5年2月～3月

調査面積 100m²

担当者 堀木真美子・早野浩二



調査地点 (1/2.5万「名古屋南部」)

調査の経過 発掘調査は史跡 断夫山古墳調査事業に伴う学術調査で、愛知県民文化局文化芸術課文化財室から委託を受け、一昨年度から継続して実施している。今年度は前方部南西側の一昨年度と対称となる位置に、前方部の墳端、周濠の規模、周堤の有無の確認を目的とした調査区(22A区)、その外側に、周濠の有無の確認を目的とした調査区(22B区)を設定した。

立地と環境 史跡 断夫山古墳は岬状に突出する洪積台地(熱田台地)の南端西縁辺に立地する全長150mの大型の前方後円墳である。築造時期は墳形、過去に採集された埴輪と須恵器から古墳時代後期前半と推定されている。埋葬施設の構造は不明である。

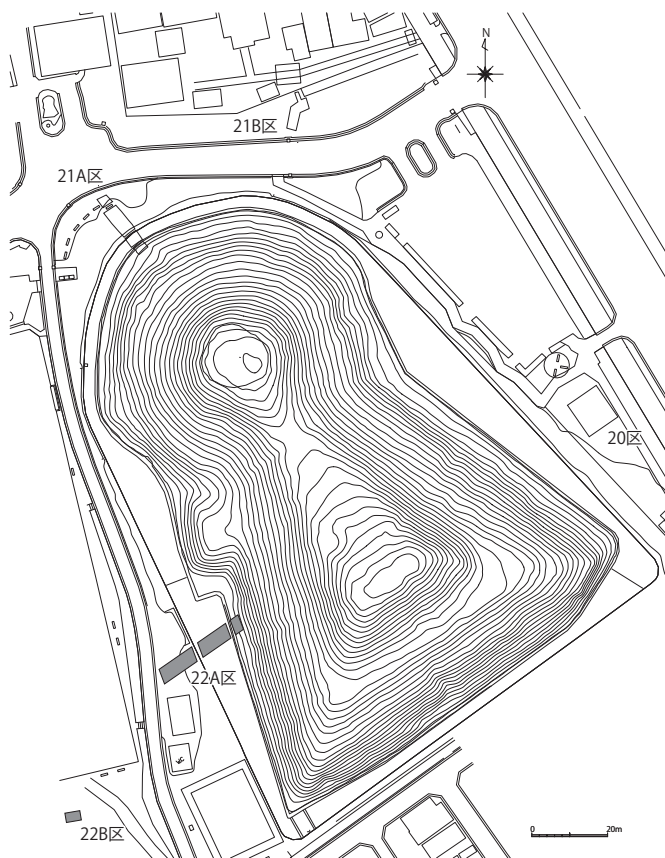
古墳の周辺には縄文時代の遺跡として玉ノ井遺跡、弥生時代の遺跡として高蔵遺跡、古墳時代後期の古墳として全長約70mの前方後円墳である白鳥古墳、古墳時代中期から後期を中心とする古墳群として高蔵古墳群が分布する。

2 2 A 区 22A区は史跡指定範囲である後円部最下段の墳丘部分と墳丘を囲う玉石垣間から指定範囲外の部分にかけて設定した。

墳丘部分は表土付近から円筒埴輪が散在して出土した。玉石垣間は基盤層まで削剥されていた。

指定範囲外の部分は濠状に浅く落ち込む状況を確認したが、中世以降に掘削、排土、整地が繰り返されたようで、周濠の南西岸付近は近世の大溝が掘削されていた。近世の整地層、溝内からは若干の円筒埴輪が出土した。

(早野浩二)



調査区位置図